

XX

雑阿含經 身命經 人は業という依りどころによって転生する

靈魂と身体	〇一八	人間を生じさせる業とはなにか？	〇四二
薪は尽きても火は燃える	〇二六	タンハーこそが、来世のあなたを生じさせる業である	〇四六
お釈迦さまの否定されたアートマン	〇三三	貪・瞋・癡の三獸心	〇五〇
靈魂否定がもたらす刹那的生き方	〇三四	靈的世界の実相	〇五二
無常であることの救い	〇三八		
依るところがあるから転生する	〇四〇		

XXI

増一阿含經 声聞品 来生を決定する命終の状態

バラモンの神通力	〇六〇	お釈迦さまの教法の偉大さ	一〇〇
死後の運命をも変える戒の力	〇七一	仏教教理の裏付けとなる運命学	一〇三
善趣に生まれる持戒者	〇八二	お釈迦さまは本当に神通や占いを禁じられたのか	一〇六
横変死者をも救う戒の力	〇八三	肯定される真の奇蹟	一〇八
出家修行をする八闍斎	〇八七	お釈迦さまと健康医療	一一一
塔寺を訪れて積む功德	〇九〇	三悪趣を乗り越える仏道修行	一二四
バラモンの神通力の限界	〇九二		

XXII

長阿含經 遊行經 お釈迦さまの死生觀を記すお經

来生を理解する「法鏡」	一二六	成仏法の修行は、表面意識、潜在意識、深層意識へと進む	一六九
亡くなった大勢の仏弟子たち	一三三	聖者の流れに入る	一七二
人間の心と身体と魂を束縛する十種類の随煩惱	一三五	お釈迦さまのおしかり	一七四
仏陀と阿羅漢	一四二	大切なのは死後の生處	一七六
苦行と瞑想	一四三	法鏡とは仏弟子としてのチェックリスト	一七八
習気を取り除く苦行	一四六	「仏・法・僧・戒」に対する堅固な信仰を獲得する	一八二
煩惱を止滅させる大善地法	一四九	戒学・定学・慧学	一八五
習気が苦しむ苦行だからこそ効果がある	一五一	あらゆる存在の相から解放される	一九二
自分の心癡との戦い	一五四	法鏡とは不壞信を獲得すること	一九五
仏陀に至る聖者の四つの階梯	一五七	現在における「仏」、応供の如来の復活	一九六
意識しない心	一六〇	真正仏舎利の降臨	一九八
自分の中のアカの他人	一六三		
進化の過程で必要だった前人間的動物本能	一六七		

XXIII

雜阿含經 摩訶迦經 仏弟子が顯現した念力の炎

奇蹟を起してこそその宗教	二〇八	不放逸に阿含の教法を歩め	二二〇
モンゴルの奇蹟	二二七	徳によつて成仏する	二二四
火光三昧と念力の護摩	二二二		

XXIV

雜阿含經 第一義空經 十二因縁の順観と逆観

「最高真実の空」を説くお経	二二三	聞思修の三慧	二四六
蘊処界三科の法門	二三七	縁起の法と四諦	二四八
眼にアートマンはない	二三九	十二因縁と苦の発生・消滅	二五一
この五陰が滅しても異陰が相続する	二四二	十二因縁と淨め高める行	二六一
「異陰」とは靈魂のこと	二四三		

XXV

雜阿含經 七道品經・果報經 七種果經 涅槃へと導く七覚支法

念覚支と四念処観	二六八	選び取ることが修行	二九二
四念処観は小乗の瞑想ではない	二七九	宗教の与える救いとは	二九六
七覚支法の果報	二八二	大乘仏教と安心	三〇〇
二本の柱からなる念覚支の修行	二八九	仏教が与えるものは「成仏」	三〇二
念覚支が七覚支法の中心	二九〇	精進覚支は梵行と心解脱行	三〇四

修行が苦しいというやつは一人前になれない

心に微笑を持って

つらい修行の中に喜びを見出す

定覚支は瞑想修行

喜びが自然に湧いてくる

修行法と梵行